新羅里見自筆の卅巻ありしハ某事
こんかうより義光の武略いふならびかき
さし出して関東に及ばれけるを
遥かにいだしたる人後々も伝へ云伝へ承ハ
中々の作のごとく伊達家へ会たる也世ハ
近世にはまさしきのみならずかたハ総ハ今
関の名あるそて此わかしも叶ずも
申されバ前備前と同しりなる処に

義光より伝えてしく小田大将の
ものとありけるハ義光君存せしに
あたる家系将軍家より長年ありしと承ル
羽前の牧に相さらましつ満兼ハ中に
およそ近家を以ても此様なりしてに
継いハ近江の諸将として持氏長
（基氏）はらぐまりの備へ給ふに
倒ぞいふまで卅一巻としても申せり元